

訪日客伸び再び勢い

上半期117万人クルーズがけん引

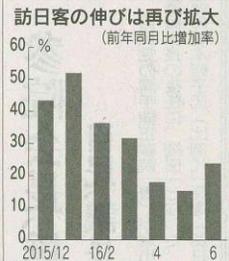


日本を訪れる外国人観光客の伸びが戻ってきた。日本政府観光局が20日発表した6月の訪日客数は198万9700人と前年同月を23.9%上回り、同月としては最高を記録。熊本地震で訪日を手控えていた韓国人客の増加などが追い風だが、1人当たり消費額は減少が続いている。

1～6月の上半期訪日客は前年同期比28.2%増となり、1171万人の過去最高を記録した。皇居・富殿を見学する外国人観光客ら。6月、東京都千代田区

夏から秋にかけて訪日客が増える多客期を迎える。今のペースが続けば年間2500万人程度に達する可能性も出てきた。6月は5カ月ぶりに伸び率が拡大した。けん引役の一つが、中国などから

クルーズ船の来航ラッシュだ。国土交通省によると、6月の外国船の寄港は156回と前年同月より7%も増えた。超大型の「クアタム・オブ・ザ・シーズ」が室蘭港や横浜港などに寄



港し、4000人を超す観光客が市街地に買い物に繰り出す光景もみられた。熊本地震の影響も和らいでいる。九州に近い韓国人の訪日客は5月にマインナスに転じたものの、6月は一転して38%増えた。台湾、香港、米国からの訪日客は単月として過去最高に上った。

訪日客の動向に詳しいJPモルガン証券の穴井宏和氏は「2020年東京五輪に向け都市整備などが進むため、長い目で見て訪日客増の流れは変わらない」と話す。ただ、「爆買い」ともいわれた訪日客消費は勢いを欠く。観光庁が発表した4～6月の旅客1人あたり消費額は15万9930円と、前年同期に比べて9.9%減った。マインナスは113月に続き2期連続だ。客数は増えたため全体の消費額は7.5%増とプラスを維持したが、変調が鮮明だ。消費額全体の37%を占める中国人の慎重姿勢が目立つ。1人あたり消費額は約22万円と28%のマインナスだ。化粧品や香水の購入は増えているが、高額な家電製品は減少傾向を強めている。4～6月は前年同期より10%以上円高・元安が進みその分、日本での中国人の購買力が落ちた。中国が4月に個人輸入品にかかる税制を改正した影響も無視できない。インバウンド消費が中国人頼みになっていた側面もある。4～6月は3603億円だった訪日客による買い物額のうち、中国人のシェアは95%に達した。

観光庁の田村明比古長官は20日の記者会見で、「特定の国の特定状況に左右されない消費構造をつくりたい」と語った。体験型観光施設を充実させるなどして欧米を含む

多様な国籍の訪日客を呼び込むことを目指す。政府は2020年に訪日客を4000万人に増やす目標を掲げており、クルーズ船に対応した港の整備などを進める方針だ。8月のリオデジャネイロ五輪では日本の観光地を紹介するブースを設けて日本の魅力をアピールする。